

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)(たちばな)】

事業所番号	2694000098		
法人名	(株)エクセレントケアシステム		
事業所名	エクセレント桂		
所在地	京都市西京区牛ヶ瀬西柿町75		
自己評価作成日	平成30年7月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成30年8月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たち施設では利用者様・入居者様に対してマナー・接遇・美味しい食事の提供・退屈させない介護を中心とした主体性・自立性を尊重した日々の関わりを大切にしています。マナー・接遇ではマナー・接遇の講師をお迎えし研修を行い、美味しい食事の提供では、エクセレントケアシステム全体で食事検討会や食事コンテストを行い、味付けだけでなく、お食事を楽しむ喜びを感じて頂けるよう日々努力しています。退屈させない日々の介護では施設全体レク(夏祭り・季節の観光ドライブ敬老会ボランティアにてマジック・合唱会、ユニット内では誕生日会・フラワーアレンジメント・ガーデニング・カラオケ・外食レク・ミニゲームなどの活動を行っています。利用者様・入居者様にとって、その人らしく安全に過ごして頂く空間をこれからも提供していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

さくらユニットに同じ。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて事業所理念を唱和し、3つの柱である「接遇、食事、退屈させない日々」の理念がブレ無いように確認を行っている。	以下の項目すべて、さくらユニットに同じ。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事等に参加し、地域の方と関わっている。施設行事等では、地域の住民の方々に参加して頂けるように宣伝しています。日々更新し情報発信を行っているウェルカムボードは地域の方々に親しまれています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談、支援の方法についての相談窓口を置き専門職員による相談、助言を行っています。認知症を悲観的に受け止めず、認知症と上手に向き合っていける事をスローガンに掲げています。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の結果をサービスに活かせる様にしています。なるべく多くの職員が運営推進会議に参加し、利用者の状況や事故、行事等の報告を丁寧に行い、家族様や地域の声を直接聞けるよう取り組んでいます。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所連絡会や地域ケア会議等に参加し、連携を取っています。運営推進会議録には、事故件数、苦情件数と内容を記載し日頃から報告・連絡・相談を行う体制をとっています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロアの出入口及び、各居室の施錠は行っていません。エレベータのキーロックは定時に開錠を行っている。身体拘束防止に関する知識を正しく理解する為に、全体会議・フロア会議では勉強を実施し、職員間にて理解を深めることに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リスクマネジメント・身体拘束廃止委員会を発足し施設内で発生したヒヤリ、事故等の件数と予防について話し合っています。更に身体拘束研修にて虐待防止についても研修を行いました。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を行い、利用する人の権利を守る大切さを学んだり、外部の司法書士の先生の講師により、勉強会を開催し、知識の向上に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には施設サービス計画書の説明を行いサービス内容の理解・納得された後に契約を行うようにしています又、契約前の説明は勿論、契約後も適宜不安、疑問に対応できるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様には出来るだけ面会に来て頂けるよう促したり、利用者様、ご家族様へ運営推進会議の御主席を積極的に声掛けを行い、意見、思いを聴き取れる機会を設けています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回定期的に全体会議や委員会会議において職員から、企画、意見、提案が行える場を設けています。全体会議は、各委員会活動の報告の場も兼ねています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は年2回目標を設定した自己評価シートを提出し、半年後に各自が設定した目標に対しての到達度を記入し提出しています。提出されたシートは会社が職員を評価する上での重要な書類となります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を行ったり、職員が外部研修を受講する機会を設けたりし、介護技術の向上に努めています。職員から介護技術に関する質問があれば、実際に手本を示す等職員が理解しやすい環境作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	エクセレントケアシステムグループの他施設と情報交換等を行ったり、見学をする事で、良い所を見本にしサービスの向上を図っています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に家族さまより十分な聞き取りを行い、本人様の不安を軽減する為に丁寧な対応をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様としっかり話をして施設側へのニーズを確認し、信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様との初期面談では、GH入床サービスに拘らず他のサービス方法のメリット・デメリットの説明を行うようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様がGHの主役であり、入居者同士の関係作り、又協力して作業が行えるように職員は支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様へ面会に来ていただけるように声かけし、面会時には近況報告をしています。又、衣類の入れ替え等の協力をお願いし、共に支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の自宅近所の方の来訪や、昔住んでいた場所や通学した地域などをドライブしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係に配慮し、話がしやすい席の配置にしています。又、話がはずむよう、スタッフが間に入り場を盛り上げる等を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が、終了した方に対しても年賀状を送る等しており、相談があれば気軽に応じていける関係を継続しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のバックグラウンドを収集し、その人の立場に立った視点で考えたり、チームでカンファレンスを行い、職員間での情報を共有を行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様・家族さまとの会話の中で既往歴や趣味・これまでの生活歴など情報収集を行いケアに繋げています。また、スタッフ間で情報共有を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の各担当スタッフを設け、その方の様子を家族様に伝えたり居室の整理。又、誕生日には担当スタッフが主になりプレゼントを選び誕生会を開催している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月開催しているユニット会議で入居者様一人一人のカンファレンスを行っています。入居者様の発言・表情を観察し、その状況に応じた介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録用紙・申し送りノートに職員の気づいた点を記入し職員間で情報を共有しユニット会議で話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様は月々の生活の中で、家族様は面会時に積極的にお話しさせて頂きニーズをひらい対応させて頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	郵便物を入居者様に届ける支援を行っています。また、近所のドラッグストアにも入居者様と買い物に行くこともあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療前に、普段のご様子を文章にて主治医に報告を行い受診がスムーズに行えるように援助しております。加えて診療後は職員から主治医に相談する時間を設けて適切なケア援助に結び付けています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態の変化や気になることがあれば看護師に報告・相談を行い、チーム間で情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と情報共有、情報交換を行い急変時の対応に備えています。又急変時には速やかに受診できるように情報提供用の書類を準備しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の指針について説明を行っています。家族様、主治医、ケアマネ、ユニットリーダーにて終末期ケアについて話し合い事業所で出来る事、出来ない事を十分に説明したうえで施設での看取りを希望された場合には看取りまでのケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し必要な情報を整備しています。具体的には、救急車要請の仕方、報告の仕方、救急車同乗時の注意点等の学習を定期的に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で年2回消防訓練を行い、全職員が災害時の対応ができるように取り組んでいます。又、自治会の防災訓練に参加し、町内会との協力体制を築いたり、法人内の相互協力ができるよう、SNSで情報共有できるシステムを構築している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の訴えに対して興奮されない様に言葉がけにも注意傾聴することを心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人様からの希望に対して傾聴し自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様より就寝時間が違い本人様の希望により遅くまでテレビを観ていただくこともあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服を本人様に選択して頂いています。月1回の訪問理美容もあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日ケーキを利用者様と一緒に作ることもありました。食事前のテーブル拭き等手伝って頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は記録しています。お茶など嫌いな利用者様は利用者様の嗜好に合った飲物を提供します。細めな声かけを行い水分をとって頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨き・うがいの援助を行い口腔状態を把握すると共に残存能力を使っていただく介助も行っています。希望される方には訪問歯科のサービス利用の案内も行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレにて排泄していただけるよう自立に向けて援助しています。日中は入居者様全員トイレにて対応しています。一人一人の排泄リズムを把握し、定期的に声かけし誘導しています。また、排便に関しても薬に頼らない自主排便を目指し、補水の促しや腹部マッサージを実施しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄を記録し便秘状態を把握できるようになっています。水分摂取を促し自然に排便していただけるよう取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日の目安を設定していますが、本人様の希望や体調を優先し気分良く入浴していただけるよう取り組んでいます。車椅子が十分に入れる程浴室は広く造られています。季節によってはゆず風呂などを行い、午前と午後を使用した個々にそった入浴を支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の生活習慣を尊重し、フロアで過ごされるだけでなく、ベッドでも休んでいただけるよう支援しています。一人一人の状態に合わせて休息を取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を整理し保管し必要時にはすぐに閲覧できるように整備しています。加えて職員は普段良く使用する薬についての知識(服用時の注意点等)の修得に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を支援の参考にしつつ役割を持って生活していただけるよう取り組んでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候によって屋外への散歩やドライブを実施しています。また、ご家族様と相談のもと外食レクリエーションなども行っています。近隣の散歩や買い物への外出など気候の良い日に積極的に実施しています。また、季節によってはお花見や紅葉見物などドライブに出かけることもあります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭を管理されている御入居者様はおられません。希望があれば相談に応じていきたいと考えています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の手紙、電話を本人様へ取り次ぎ支援を行っています。又希望者には、郵便(手紙、ハガキ等)を出す支援も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには季節を感じていただける飾り付けやイベントで撮影した写真などを提示しています。入居者様と居心地の良い空間作りに取り組んでいます。ホワイトボードに日付とイベントを大きく記入し、新聞を常備することで何月何日なのか分かりやすく工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大型ソファの設置や安全を考慮した物品の配置など、入居者様がくつろげる空間を提供できるよう工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用された家具などを入居の際に持ち込んで頂き、ご自身の部屋である事を記録していただけるようにしています。大きなガラス戸があり、日照は良好、ベット・洗面台・自活に必要な物品が備えられています。また、ご家庭で使用されていた家具や布団類・写真等もあり、生活感のある居室になっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	脱衣所や浴室は一般家庭の浴槽に近く、且つ安全の為に手すりを多数設置しています。介助者の援助によって自宅で安心して入浴していただける気分を体感できるよう取り組んでいます。		